

「鳩山論文」を読んで

8月27日のニューヨーク・タイムズに掲載された「鳩山論文」について、アメリカ政府関係者が懸念を示したことを、衆議院議員選挙で民主党が圧勝したあとの9月初めに新聞各紙は報道した。

遅ればせながら、私はニューヨーク・タイムズを検索して、“A New Path for Japan”と題する「鳩山論文」を見つけ出して読んでみた。この文章はA4判で2.5ページ程度のもので、「論文」というほど長いものではない。掲載されたのはOP-EDと呼ばれているページで、鳩山由紀夫氏が寄稿した形になっている。本当は、もっと複雑な経路を経て掲載されたという話もあるようだ。OP-EDとは、Opposite Editorialを略したもので、社説が掲載されるページの向い側のページを指し、ここには署名入りの論説が掲載されるのが普通である。したがって、この「論文」にはYukio Hatoyamaの署名がある。

この「論文」の英文は、ニューヨーク・タイムズのOP-EDに出る論説として、様になっていると思う。日本語で書かれたものには日本語特有の「ぼかし」があって、当たりがやわらかになることが多いが、それを英文にすると、よほど達者な人が訳しても、「ぼかし」がなくなってむき出しの主張になることが多い。この「論文」にも、そのような面があると思う。そのために、アメリカ政府関係者が懸念を示したのかもしれない。

日本の新聞が伝えていたように、この「論文」で鳩山氏は、①経済のグローバル化が人間無視と地域社会の崩壊をもたらしたことを指摘し、②今後の世界はアメリカ1極中心から多極化に移行するであろうと予測し、③日本は東アジア共同体の構築に向かうべきだと主張している。冒頭部分で、鳩山氏の旗印である「友愛」について述べられているが、その後の展開では、この概念と上記の①への対応策や③の構想との間の関係は十分に説明されてはいないと、私は感じた。

上記の「論文」を探し出して読んでいる間に、この「論文」の元になったものがあることが分かった。それはPHP研究所が発行している雑誌Voiceの9月号に掲載された「私の政治哲学」と題するもので、著者はもちろん鳩山氏である。この全文が鳩山氏のホームページ

(<http://www.hatoyama.gr.jp>)に掲載されているので、ダウンロードして読んでみた。小さな字でA4判用紙4ページ半にわたるもので、ニューヨーク・タイムズの「論文」と比べれば、鳩山氏が言わんとするところは一応明確になっていると思う。

しかし、これは、表題が示しているように、所詮「哲学」であって、具体的な政策について説明したものではない。私はこれを読んで、鳩山氏が、現在の日本の社会を新しい方向に動かすことを目指すのか、それとも昔の方が良かったので元に戻そうとするのかという重要な点がむしろ分からな

くなった。対外関係については、東アジア共同体という、いわば夢について語り、日中、日韓の間の問題などは2国間協議で解決することは難しいので、東アジア共同体のなかで、問題を解消すべきだと語っているが、これは余りに非現実的な話ではないだろうか。現実にはいろいろな問題があるアメリカとの関係をどうするのかについてはほとんど触れられていない。

若いころの鳩山氏は、国会関係者のなかで宇宙人と言われていたそうだが、「私の政治哲学」にはその残影が見られるようだ。政治家が夢をもって、その実現に努力することは結構だが、現実の世界情勢は厳しい。既存の大国のパワーポリティックスは少しも変わっていないうえに、中国、インド、イランのように、新たなパワーとなることを国家目標に掲げている国もある。首相となった鳩山氏が、現実の政策選択において、自分の夢にこだわって国を誤ることのないよう願うものである。（おわり）